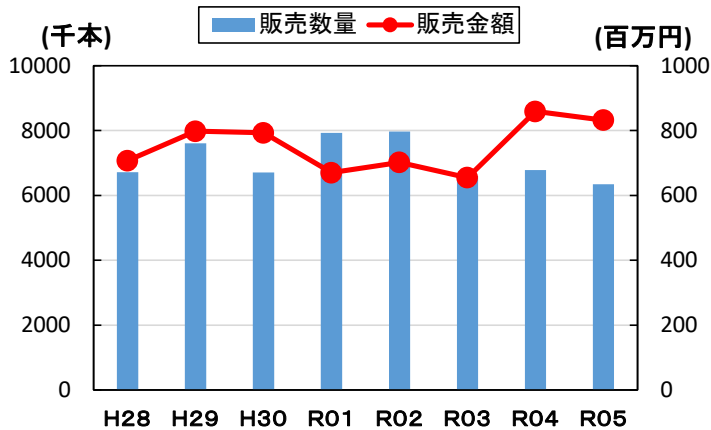


すごいっしょ!ひだか~知ってる?!ひだかのデルフィニウム~

どんな産地なの?

新ひだか町三石地区は馬産地であり、「みついし牛」の産地であり、そして「みついし花だより」の花の産地でもあります。

「みついし花だより」を生産するみついし花き振興会は58戸(R5年)の生産農家で構成され、静内地区5戸、浦河地区5戸の農家もメンバーに入り、広域出荷を行っています。

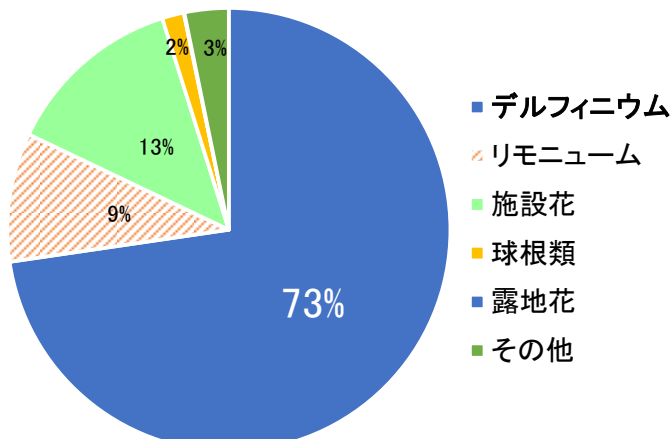


みついし花き振興会花き販売数量と販売金額の推移 (JAみついし調べ)

産地になるまで

花き生産の取組は、平成元年に6戸の農家が「ストック」を栽培することから始まりました。平成7年、三石地区の夏期冷涼な気候を生かし、「デルフィニウム」を導入しました。現在は、作付面積・生産量共に全道一の産地になりました。デルフィニウムは、みついし花き振興会販売額の73%を占めています(R5年)。

みついし花き振興会では、品評会を開催し、品質向上をめざしています。そしてより品質の高い花を全国にお届けしています。



みついし花き振興会販売内訳 (R5年 JAみついし調べ)

デルフィニウムはどんな花?

デルフィニウムはキンポウゲ科の一種で、名前の由来は、つぼみの形がイルカに似ていることから来ています。

みついし花き振興会では、主にシネンシス系(スプレータイプ)、エラータム系(八重系タイプ)を生産しています。シネンシス系がデルフィニウム販売額の75%(R5年)となっています。



写真1: シネンシス系デルフィニウム



写真2: エラータム系デルフィニウム